

校長室の窓から (*^_^*) 「忘れられない ゆかりご飯」 ～彼女が夢を叶えるまで～

自営業だった両親は忙しく、家族で食卓を囲むことは少なく出前を分け合って食事を済ませたりしていました。まだ育ち盛りの私たち兄弟の体を気かけ、従業員の方や近所のおばさんが、よく手作りのおかずを差し入れてくれました。ちょっとした漬け物や煮物、色ご飯やカステラまで手作りで…。全てが驚きのメニューでした。そんな中、小学校で味わった給食の美味しさ、そして毎日変わる様々な献立は感動でした。特に“ゆかりご飯”の美味しさが忘れられず、給食への憧れが芽生えました。今では「ゆかりの素」をかけただけのことと分かりますが、当時は「こんなに美味しいご飯をどうやって作るのだろう？」と不思議でたまりませんでした。いつしか「給食のおばさん」になることが夢に。しかし夢は叶わぬまま、病気の父を支えるため店を手伝いながら、人並みの結婚・出産を経験しました。2人の娘を授かり、私が小さい頃味わえなかった家庭の温かい食卓を味わわせてあげたいという思いで過ごしました。子育てが一段落したとき、ふと夢を思い出し、資格も経験もない中で保育園の調理補助として働き始めました。初めは苦労の連続でしたが「おいしかった～」の一言に支えられ、2年後に調理師免許を取得。責任者として保育園の給食を任される立場になり、毎日もりもり給食を食べてくれる子どもたちの笑顔を見ることができて本当に幸せです。

この女性から仕事を選んだ理由を聞いたのは昨年。まさか、そんな思いを抱えていたとは——これは、結婚24年目になる私の妻の物語です。

